

【テーマ（１）】 団体名 国立大学法人北海道教育大学

全国的な過疎化・小規模校化の課題に対応した「へき地教育プログラム」の開発

－へき地・離島を多く抱える北海道教育大学・長崎大学・鹿児島大学・琉球大学の連携による先行実践プログラムの開発－

調査の概要

◆課題認識

- ・学校教育の現場で、全国的な過疎化・小規模校化が課題となっている中、課題に対応できる教員養成を行う大学が極めて少ない。
- ・全国的な教員志願者の減少と大学生のへき地赴任忌避傾向により、へき地では教員の定数未配校が増加している。
- ・教育委員会及び学校から教員養成大学に対し、地域の教育活動を推進できる教員の養成が期待されている。

◆調査研究の目的

- ・所在地にへき地・離島の小規模校が数多く所在する長崎大学、鹿児島大学、琉球大学との連携（以下、「４大学」と呼称）を基盤に、他大学へ普及できるプログラムの開発に向けた調査研究を行う。

◆調査研究の方法

- ・４大学連携によるプロジェクト会議において、へき地・小規模校教育の比較検証を行う。
- ・４大学連携によるフォーラムを開催し、へき地・小規模校教育の取組と課題を共有する。
- ・地域枠に関する先行実践地域（和歌山県、岡山県）への訪問調査を実施する。
- ・へき地・小規模校教育に関するプログラムを終了した学生に対する教員採用試験の措置及び地域指定枠（仮称）の設置について検討する。

取組のポイント・成果

◆取組のポイント

- ① ４大学におけるへき地・小規模校教育に関する取組の共有
へき地教育関連の授業科目（講義、実習）の内容を共有し、効果と課題を検証した。
※現在、検証結果をまとめている。
- ② 在学生及び教職に就いている卒業生にアンケート調査
へき地教育関連の授業科目（講義、実習）の内容を共有し、効果と課題を検証した。
※現在、検証結果をまとめている。
- ③ 地域枠に関する先行実践地域への訪問調査
※３月に実施する。
- ④ 教員採用試験における地域枠（仮称）の設置
※北海道教育委員会と協議中である。

◆成果

※今後、上記の検証等を行い、教員養成段階における「へき地教育プログラム」を実施する意義等を明らかにする。

今後の課題

※全国の教員養成大学において、「へき地教育プログラム」を実施してもらうための要素を記載する。